

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600014		
法人名	医療法人 末広		
事業所名	グループホーム 無量寿		
所在地	大分県臼杵市大字末広915番地		
自己評価作成日	令和5年6月26日	評価結果市町村受理日	令和5年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人を尊重して大切に接するように常に努力しています。  
 介護1~5まで様々な利用者様がいらっしゃいますが、その方に合ったケアを皆で考え支援しています。隣接する母体病院との医療連携が早急に行うのでご家族様にもご安心ご満足されています。季節感を感じられる工夫をし、レクや行事を行っています。毎月の無量寿便りも好評です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="#">事業所の概要   グループホーム 無量寿   大分県   介護事業所・生活関連情報検索「介護サービス情報公表システム」(mhlw.go.jp)</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	令和5年7月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経年による高齢化・重度化傾向にある事業所では「一人ひとりを尊重し、その方に合ったより良いケアを目指す」を年間目標とし、職員もユマニチュードケア(認知症の方の心(安心)をつかむケア療法)を参考に職員個々の年間目標を作成し事務室に掲示し会議等で評価を行う等、利用者に対し家庭的で、にこやかな生活の中に職員の温かい見守りが表出しています。母体病院との強固な連携は、ホームに入所して長く生活が出来る要因となっています。これまで築き上げてきた地域や家族との関係性がコロナで稀薄になる中、広報誌やお便りの情報発信は不安解消として大いに期待され感謝と信頼に繋がっています。また、法人が開催する音楽治療・陶芸教室に利用者の参加もあり、参加者(地域の方)との交流が楽しみの一つになっています。面会に関しては、感染対策を徹底し、通常面会に近づけるよう状況に応じて工夫されるよう期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で理念を確認しいつも目にする事が出来るよう掲示し、今年度の目標も貼り、実践に繋がりにやすいように努めている。	事業所理念と年度目標を、職員がいつでも確認できるように見やすい場所に掲示し、実践に繋がっています。ユマニチュード委員会の勉強会で、職員一人ひとりの年間目標を作成、年度末の会議で実行・達成できたか評価しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	庭の木の手入れや草取りや畑で野菜を植えて下さったりして玄関先で地域の方々とお話している。 コロナ禍の為ボランティア訪問は控えていたが今後は再開したい。	感染対策を行い、地域の方々との交流を徐々に行っています。今年度は防災訓練を地域の方と一緒に病院の駐車場で行ったり、地域の避難場所の提供等地域貢献に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行する「無量寿便り」や白川病院の広報誌「すえひろ便り」にも掲載され多くの地域の方々に発信している。 今後は秋祭りやお茶会など以前のように交流できるよう努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で対面での会議は中止し、書面で報告させていただいていた(6/27日より対面開催が再開)。ご意見やご要望があればサービス向上に活かしている。ご家族からは感謝やお礼のお手紙をいただいている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催しています。理念・年間目標の実践の取り組み、利用者の近況報告(毎月発行する「無量寿だより」を参考)等を会議で報告、話し合いの中で出された意見をサービスの質向上に活かしています。また、家族は順番に参加しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍は特に連絡を取り合い様々な場面で協力して頂いた。様々なWEB研修にケアマネ2名が参加し、情報収集に努めている。	運営推進会議・日常的な電話相談・メールでの情報提供を通じて、行政担当者との連携を図っています。制度・運営上の疑問点が生じた場合は、市担当窓口相談したり、ホームの実情への理解を得て必要な助言を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体病院の委員会や研修会などで勉強し、毎月のケアカンファレンスで職員一人一人の意識が向くように身体拘束をしないケアの実践に向けて努力している。	法人全体での管理者会議や身体拘束適正化委員会へ参加や研修、毎月のカンファレンス等で事例を用いて話し合い、身体拘束の内容とその弊害について認識し、日々の支援に活かしています。接遇研修の中でもスピーチロック等の言葉遣いも拘束に当たると意識付けしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体病院の研修会や毎月のケアカンファレンスで新聞の切り抜きやテレビのニュースなどの情報を職員間で話し合い情報共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会もあり参加している。 資料もあるが行政の方や弁護士さんに相談もできる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、事務職員が十分丁寧に説明し、不安や疑問点が無いよう配慮している。 コロナ禍では施設内の見学ができなかったため写真を撮り説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時やご家族の方への連絡時にご意見や要望をお聞きしている。 運営推進会議は令和5年6月より対面で開催できるようになり、順番にご家族にも出席していただいております。	家族からの意見・要望は、通常の面会やケアプラン策定時、変更時等の電話や毎月の近況報告(無量寿便り)で意見を伺っています。また、運営推進会議に順番で家族の参加があり、協力・連携も図れています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃よりスタッフの意見や考え、悩みなどをよく聞くようにしている。 毎月のケアカンファレンスでは全スタッフから意見交換を行い、より良い運営が出来るよう努めている。	職員には毎月の会議やケアカンファレンスで意見や要望を出しており、日常的に意見を出せる雰囲気を作っています。事業所及び職員の質向上やモチベーションについて研修会や勉強会を積極的に開催しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は職場の様子を見に来て下さり、職員に声をかけ配慮して下さっている。勤務状況や職員の個々の状態を把握して下さり、各種手当など配慮して下さる。要望も聞き入れて下さる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体病院での研修会、ケアカンファレンスでの勉強会、県や市の研修会や各自の資格取得への勧めなどを積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ではZOOMでの交流により情報収集し、よい所を学び職場に活かす努力を行っている。 今後は以前のように研修会などで交流の場が増えると思われる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が安心して話ができるような雰囲気作りに努め、様々な角度からアプローチを行い職員間で共有している。出来るだけ多く声掛けやスキンシップをとり、不安をなくし安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時よりご家族の話をよく聞き、困りごとや不安、要望を十分話していただけるようにしている。 いつでも連絡が取れ、どの職員でも対応できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医や看護師、ケアマネージャーと連携し、必要な支援や適切な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話、行事、レク、食事など一緒に楽しみ、各利用者様が出来る事を手伝っていただき感謝の言葉を忘れずお互いに協力しながら生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時はゆっくり話をし今のご様子を伝え、無量寿便りや毎月本人の写真を送っている。ケアについてご家族に伺ったり必要な物品の購入をお願いしたり共に支援を考えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で十分な面会は出来なかったが、電話や手紙などで支援に努めている。 本人が育てたお花や家で出来た野菜など持って来てくれたり、近所付き合いをしていた方が面会に来てくれている。	現在は玄関先での面会が可能であり、知人や親類の方が来られています。電話や年賀状、手紙の交換等職員の支援と一緒に盛り上がり喜ばれています。法人が行う音楽療法や陶芸教室に通う知人との交流もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや会話などにスタッフが一緒に入り皆さんが楽しく関わりあえるよう支援に努めている。席やテーブルなどの工夫もしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方やそのご家族に出会ったときは声掛けをし、その後の様子を伺ったり何か気になることや相談があれば何うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや希望の把握に努めている。日々の業務内でも気付いたことを共有したり、毎月のケアカンファレンスで情報共有をし、把握に努めている。	職員は利用者一人ひとりと会話する中で、思いや希望が引き出せるようコミュニケーションを図っています。その中で、どうしたら喜んでもらえるか検討し、日々の生活の中での気付きや観察の結果を申し送りノートや日誌にメモし職員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入浴時にご本人やご家族様よりお話を伺ったり、主治医やケアマネより情報収集に努めている。一人ひとりファイルの中に情報をファイリングしており、それをいつでも見ることが出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子、健康状態、食事、睡眠、排泄、バイタルサインなど状態把握に努めている。 できる事はご本人にして頂くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで毎月職員全員で話し合い、ご本人、ご家族、主治医にも意見を伺いながらより良いケアプラン作成に努めている。	介護計画書とともに日課計画表を作成しており、共通サービス、個別サービスが計画通りに提供されているか毎月のカンファレンスで検討し評価を行い、継続の可否を見極めており、具体的な計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や身体の変化等こまめにケア記録や日誌に記録し、申し送りやノートでも情報共有し、ケアプランやケアに反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の特別な状況などで急な面会や外出、休日などの面会も出来るだけ希望に添えるようにしている。母体病院の音楽療法士による音楽療法は出来る限り対応策をとりながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではボランティアの訪問や外出は困難だったため、グループホーム内でのレクや季節行事の他は母体病院での陶芸や月一回の音楽療法、お誕生プレゼントなどで支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医により診察や薬の処方があり、体調不良時はすぐに受診できる。歯科は希望時に往診してもらえる。眼科は必要時にご家族と共に受診できるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっています。主治医による定期的な健診や専門医による受診支援は、家族の協力を得ながら支援されています。各人の医療機関と情報を共有し、常に適切な医療を受けられるよう又、夜間や緊急時等も対応できるよう体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師が2名いて、体調不良時は母体病院にも迅速に報告し受診することが出来る。 日々十分な観察を行い、必要時は早期に対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療連携シートを作成して病院に情報提供を行い、その後も主治医や病棟師長などと情報交換や相談を行っている。 退院時も看護添書や申し送りを受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時も説明と同意をいただくようになっているが、主治医とご家族様の意向をお聞きし、ご本人にとってより良い支援につながるよう十分に説明して出来るだけ早い時期に方針を共有し、チームで取り組んでいくようにする。	入居時、施設として出来る事の説明をし同意を頂いています。実際に終末期のケアが必要になった時は、本人・主治医・家族・施設と体調を確認し、最適な支援が出来るよう取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体病院の勉強会やケアカンファレンスなどで急変時の対応について勉強している。 マニュアルもあるが「いつもと何か違う」事を報告することを指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回母体病院と合同で避難訓練を行っている。 有事の際は連携して対応できるよう努めている。近隣の方にも協力をお願いしている。	定期的な避難訓練を、様々な想定で行われています。隣接する病院とも協力体制を築き取り生まれ、その都度反省と見直しをされ実践に繋がられるよう取り組まれています。地域の方とも、協力体制を築かれています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	母体病院のユマニチュード委員会や接遇・個人情報保護委員会に参加し、年間目標を決め各自毎日唱えて仕事で実践するようにしている。優しい声かけや笑顔で接するよう努めている。	定期的に職員全員が研修を行い、施設全体で意識の共有をされ利用者の接遇に繋がっています。利用者の気持ちに寄り添い、各人の様子を共有し細かな気配りやその人らしさを大切にされた、支援を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でコミュニケーションをとり信頼関係を築き、本人が安心して思いを表現したり自己決定できるよう支援している。本人の希望を聞き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気持ちを汲み本人のペースに合わせ楽しく過ごしていただけるよう支援している。自室でテレビを観る方、居間で過ごされる方、散歩をする方など自由にしている。職員は見守りを重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師さんに来てもらい散髪してもらっている。選べる方は気に入った服を着ていたり、乳液など家人に購入していただき自分の良い時に使用している。サイズの合わなくなった服は購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みなどアンケートをとったり普段の会話で好みを知り、献立の参考にしている。出来る方にはテーブルを拭いてもらったりお膳を下げてもらったりしている。	施設での食事提供を主としており、施設内の畑でとれた野菜を取り入れたり、その時々のお好みに柔軟に対応されています。食事を、より楽しんで頂けるよう、利用者の出来る事を生かし、らっきょう漬けをされたり、様々に食事を楽しんで頂けるよう支援に取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事形態を考えて食事を工夫している。食事量や水分量の観察をして、少ない方にはいろいろな補食を行っている。こまめな水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後セッティングをして出来るだけ自分で行っていただいている。その方の状態に応じて介助している。口腔ケアグッズもその方に応じて選んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の身体状況や排泄パターンを把握し、各自に適切な排泄介助が出来るよう支援している。出来るだけトイレでの排泄に力を入れている。	利用者の体調等を考慮しながら、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう、様子を共有しながら排泄支援をされています。職員全員で情報と意識を共有し、その人らしい支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜やバナナ、ヨーグルトを多めにとるようにしている。毎朝体操をし、水分補給もこまめに行っている。全員排泄パターンを把握し排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心安全にゆっくり入浴していただけるように滑り止めマット、浴用イス、入浴剤など工夫し楽しく会話しながら入浴している。入浴を希望しない時は中止したり清拭にしたり、泡シャンプーのみにしたりする。	入浴は、ゆったりとリラックスして心地良く過ごして頂けるよう、個々に沿った支援に取り組まれています。機械浴では、隣接する病院の協力を得ながら、それぞれの方に沿った支援体制を整えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合った一日を送っていただけるよう支援している。会話や、水分補給、リネンや衣類の調整、音、照明、室温など留意して良眠できるように支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに薬の情報があり、いつでも確認できる。与薬チェックシートを用いて誤薬の無いよう服薬介助をし、服薬後の様子観察も行い、変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	曜日別に脳トレや塗り絵、書き方などを行い、季節毎の作品作り、料理レク、音楽療法、カラオケなどをして一人一人ができることを見つけ、張り合いのある日々を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍では畑に散歩したり、玄関先で花を見る程度だったが、現在は家族と外出する方もいる。 今後はドライブレクやお花見など以前のように再開していく。	近所を散歩したり、外での日光浴を楽しんで頂いたり、日常的な支援に取り組まれています。これからは、以前のように個々の状態に合わせて、ドライブや外出を楽しんで頂けるよう、様々に工夫しながら外出支援を予定されています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望がある場合は、相談の上少額持っている方がいる。今後外出やお祭りなどに行くときは支払いをしていただくようにする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した時にいつでもご家族に電話をしている。年賀状は毎年書いていて、ご家族からも頂いている。誕生日や暑中見舞いの手紙も書いたり頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った貼り絵や展示物を並べている。施設は木のぬくもりが感じられ、花壇や沢山の木々、中庭にも自然の景色が見られ、室内では金魚も飼って楽しく過ごせるよう工夫している。	共用空間はとても明るく、季節を感じられるよう様々に工夫されています。感染対策や温湿管理に常に気を配られ、安全・安心に過ごして頂き、利用者各人へ配慮された、共用空間づくりを常に工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や空きスペースにソファやイスを用意し、利用者様同士で会話をして楽しんだりゆっくりくつろげるような居場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご自宅から希望するものを持ってきていただいている。アルバムや写真、家具や鞆、本など持ってこられている。各自のお部屋がその方らしい過ごしやすい部屋になるようにしている。	利用者が、居心地よく過ごして頂けるよう、家族の方の協力を得ながら、その人らしい居室づくりに取り組まれています。安全・安心に過ごして頂けるよう、体調や様子に合わせた支援に取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室のドアにわかりやすく表示したり、目印を付けたりしている。その方のADLや出来る事によって部屋を選んだり、必要な方にはトイレを設置したりしている。食卓拭きや下膳も手伝ってもらっている。		